

インターバンクの声（2017年5月29日）

3連休を控えた週末のロンドンとニューヨーク市場では、アジア市場で米長期金利が一段と低下したことやリスク回避の高まりもあって、ドル円は一時 111 円 90 銭割れまで円買い・ドル売りが進んだ。

東京市場早朝の水準からは 1 円近く円高が進んでいたもので、さらに持ち高調整が進めば一週間前に付けた 110 円台前半に近づくようなこともあるかと思われたが、米 1-3 月期の GDP 改定値が上方修正されたことで、ようやくドルが下げ止まった。

ただ耐久財受注がマイナスとなり、ミシガン大学消費者信頼感指数も下方修正されたため、ドルの買い戻しに勢いが付くことはなかった。

週明け東京市場のドル円は、すでにニューヨーク市場のドル高値より下落して動き始めているが、ロンドン、ニューヨーク市場が休場になることもあって大相場になる可能性は低いだろう。ただ、トランプ大統領のロシアゲート疑惑は、ついに娘婿のクシユナー大統領上級顧問の関与を伝える報道まで出てきており、連休明けに新たな報道でもあれば市場にも大きな変化があるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。